

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 27

2018年9月25日(火)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

小平の地域と共に歩む白梅幼稚園

白梅学園大学附属白梅幼稚園 園長 山形美津子

今年、4月に白梅幼稚園の園長に就任いたしました山形美津子です。これまで東京都の公立幼稚園で、教諭、副園長、園長として幼児教育に携わってきましたが、この度、白梅幼稚園の園長を勤めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

「小平」という地にはこれまであまり縁がなかったのですが、玉川上水をはじめ、鷹の台の中央公園、地域に広がる雑木林など、緑が豊かで、日々、森林浴をしているような清々しい気持ちで過ごしております。通勤の途中では、踏切の音にどこか懐かしさを感じたり、畑の作物の生長が毎日見られたり、自然の移り変わりを感じるとても楽しいものとなっています。

私の勤務する白梅幼稚園は、『遊び』を大切にした保育を進めています。子どもたちは、新しい経験や知識を求めていつも生き生きと生活しています。特に、『遊び』の世界では、まわりのことが目にはいらなくなるほど、一つのことに熱中しています。これは、『遊び』というものが他人事ではなく、子どもたちの意欲に支えられた主体的なものだからでしょう。

園庭では、毎日、土や水とふれ合い、大きな山を作ってトンネルを掘り、自分の思いを実現しようと試行錯誤したり、部屋では、空き箱を使って自分の想像したものを時間をかけて作ったり、友達と色々な役になってままごと遊びに熱中したり等、幼児期の今だからこそ経験させたい『遊び』にじっくり取り組むことを大切にしています。

白梅幼稚園は、開園当初から家庭教育講座という保護者向けの育児講座を開設してきました。

これは今も、『白梅講座』、『子どもと親を考える講座』として、しっかり本園の伝統的な活動として根付いています。子どもだけでなく親として、どう子育てに向き合っ

たらいいのかというヒントがたくさん盛り込まれた講座で、地域の方々にも好評です。この講座には、大学の附属幼稚園であることを生かして大学の先生方にもご登壇いただいています。

また、白梅幼稚園は、父親も母親も子どもと一緒に白梅で子育てを楽しんだり語り合ったりすることをとても大切にしています。PTAの活動は、主体的な『梅の実会』という名称で様々なサークルを設けて学び合いの場になっています。父親たちは『おやじの会』で子どもたちのために楽しい遊びの場を提供してくれたり、父親たちが語り合う場になっていたりしています。

どちらも素晴らしいのは、白梅幼稚園を卒園した保護者の方々への参画です。OBの方がサークルの講師をしてくださったり、おやじの会をリードしてくださったりして、ずっと白梅幼稚園のためにかかわりをもってくださっているのです。この絆は、私が経験してきた多くの幼稚園にはないことです。これは白梅幼稚園が卒園してもなお、愛される幼稚園であり続けた所以だからだと思います。これからも白梅幼稚園が、地域の幼児教育の拠点として信頼され、愛される幼稚園であり続けられるよう、そして、子どもたちが笑顔にあふれ、子どもたちの成長を助ける幼稚園を創りあげていきたいと思っています。

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

白梅学園清修中高一貫部

全国高等学校鉄道模型コンテスト

優秀賞（全国2位）受賞！

顧問 中澤亜紀



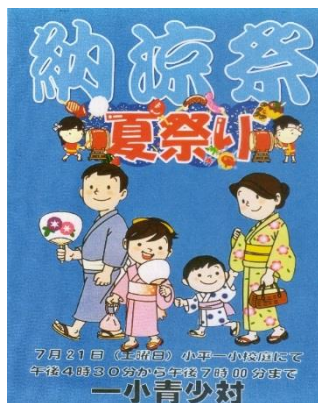
8月4日(土)・5日(日)に東京ビッグサイトで行われた全国高等学校鉄道模型コンテスト1層レイアウト部門において優秀賞(全国2位)を受賞しました。今年のテーマは「天空の城ラピュタ」を再現しました。

この作品は課外活動の「鉄道模型制作」グループの生徒たちが作りました。中学1年生から高校2年生ま

での生徒が協力して、東京ビッグサイトへの搬入日前日まで、一所懸命行いました。来年は最優秀賞(全国1位)を目指します。そのために年内に企画を始めます。受賞作品は、校内に展示してありますので、ぜひ見に来てください。

小平第一小学校の納涼祭に参加しました！！

白梅学園大学 森山千賀子



7月21日(土) 午後4時30分から午後7時まで、小平第一小学校で一小青少対主催の「納涼祭・夏まつり」が開催されました。今年は、白梅学園大学子ども学部家族・地域支

援学科の1年生12名が参加し、盆踊りを踊りまし

た。

当日は昼間からの猛暑に続き夕方になっても気温が下がらず、水分補給とともに休憩をとりながら状況でした。小平の体操グループによる小平体操、コダレンジャーの登場、出店もあり、賑やかな夏祭りでした。

家族・地域支援学科の1年生は、事前に「炭坑節」、「東京音頭」、「小平音頭」と「アンパンマンサンサンたいそう」を練習して臨みました。「新小平音頭」と「大東京音頭」は、コダレンジャーや浴衣姿の地域の方々の動きを見ながら、輪の中に

入って見よう見まねで踊りました。
盆踊りを通して、子どもたちと関わったり、地

域の方々と交わる良い機会でした。

白梅子育て広場

「なつまつりへいこう！」開催

7月あそぼうかい代表 発達臨床学科1年 仲地一世

白梅子育て広場では、7月7日(土)「なつまつりへいこう！」をテーマとした7月あそぼうかい&世代間交流広場イベントを行いました。雨という天気予報がはずれ、当日は見事な晴天に恵まれ、過去最多の参加者さんに来場いただくことができました。



今回の7月あそぼうかいでは当日が七夕ということもあり、お神輿や屋台をイメージした受付、短冊を書いて

飾ることができる本物の笹を用意し、夏祭り七夕を同時に楽しんでもいただける空間を入口に作りました。多くの参加者さんが短冊にお願い事を書き、実物大に近いフォトジェニックなお神輿と記念撮影をして楽しんでいました。



室内では、お祭りで定番の遊びである輪投げ、射的、金魚すくいをイメージしたあそびコーナーや、屋台で売っているようなお面を自分で作ることができる制作コーナーなどをご用意しました。子どもたちに限らず、保護

者や高齢者の参加者さんも子どもたちに交じってゲームをしたりお面を作ったりと楽しい時間を過ごされていました。



ちょっと休憩、という皆さんのため、乳児のお子さんでも安心してお昼寝できるようスペースを確保し、オルゴール音楽を流してリラックスした環境を作りました。ここでは多くの参加者さんが、他の参加者さんと交流しつつゆ

ったりした時間を過ごされていました。また、イベントの締めくくりとして行われた劇でも多くの子どもたちがクイズや踊りに参加して楽しんでくれました。

一人でも多くの参加者さんに一夏の思い出として楽しんでほしいという想いで多くの学生が頑張りました。参加者さんのたくさんの笑顔が今回のイベントの成功を表していたと思います。今回のイベントを通して、私は学生のみならずイベントを企画するのみではなく、参加者の皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。私たちが思い出を作るだけでなく、私自身も参加者さんから楽しい夏の思い出を作らせていただきました。参加していただいた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。次回のあそぼうカキは11月になります。また次回のイベントでも学生一丸となって頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。

一ほっとスペースさつきで防災を学習！

一

ほっとスペースさつき代表 渡辺 穂積

最近でも大阪の地震災害や大雨による災害が日本全域に広がっています。その様な時に、社会福祉法人スモンの会曙光園さんが一般社団法人 食品ロス・リポーンセンター事務局から引き取られたものを白梅学園大学さんが受け取り、そこから「さつき」用にと災害



用の非常用食品の提供を受けました。さつきではそれを機会に非常食の試食会を6月の最終開催日(6月28日)に実施することになり、合わせて災害について学ぼうと学習会を開催しました。災害と言っても小平は風雨による自然災害は免れる環境にあり、まずは地震災害にシボリ実施しました。今、東京都では「東京防災」(黄色)や「東京くらし防災」(ピンク)の冊子が各家庭・施設に配布されていますが、中身を読んで確認している人(特に高齢者)は意外と少ないのではないと思ひ、その冊子の中から重要な部分を取り出し、壁掛けのポスターを作り質問形式を交えて目で確認しながらの学習会となりました。

内容については先ず今ここ(さつき)で地震が起きたらを想定し、『一番大切な事は命を守ること』を再認識、そしてイラストを見ながら、①先ず頭を布団や靴で覆う、②火を消す、③ガラス戸の近くから離れる、

④扉らを開放する、⑤素足で歩かない（スリッパ）
等々各自家に帰っても状態は変わらないことも念押し
しました。



そしてお昼ご飯に際して戴いた非常食を試食することとし各個人に配り、被災地を想定し、電気・ガス・水道等全て使用できないことを前提に今回の非常食「肉じゃがご飯」を一人一人に配り自分で作ることとし、高齢者や障がい者に対するサポートも何を何処までと考える機会にもなり、実際に被害を受けた方々のご苦勞を思いながらも、楽しい昼食会となりました。利用者はもとよりスタッフ面々も大変勉強になった一日となりました。

東京大空襲の記憶

吉田徹（きよか世話人）

9月10日地域のコミュニティスペース「きよか」では、関野清雪氏(84歳)にお願いして「東京大空襲の記憶」を語っていただきました。氏は折り紙の名人としても有名ですが、同時に語り部として自らの被災体験を各地で講演しています。昭和20年の初期、当時小学校5年生だった氏は、疎開先の山形県鶴岡から一人、見知らぬ大人に付いて家族のいる東京の下町、両国に戻ってきます。その数日後の3月10日午前0時8分、東京下町は、B29の大編隊による、焼夷弾の雨に襲われます。

関野氏は4人兄弟の末っ子。火の海と化した中、家族6人で川を目指して逃げる途中、母親が「土を手で掘り、そこに顔を埋めて息を吸え」と。父母は交代で川の水を子ども達にかけたそうです。

2時間ほどの爆撃で一面、焼土と化し、死者10数万人を越す大惨事のなか、母の防空訓練のおかげで一家は全員生き延びることができました。

翌朝から死体を片付ける作業に、氏も加わりました。陸上だけでなく川面を埋めた死体も、鉤付きの棒で引き寄せて岸にあげ、トラックへ詰め込みます。悲惨なのは、川底に沈んだ死体。肉はそげ落ち、衣服の下はほとんど骨だけに。それらも、みなトラックに積まれ、土葬されたそうです。淡々と語られる生々しい話に、聴衆一同声もなく聞き入りましたが、締めくくりに「こんな戦争は二度と起こしてはならない」という関野氏の言葉が、強く胸に響きました。

『ぼくらはみんな生
きている』
— 緑成会整育園を訪



問してー

花音会ピアノ教室主宰 きよかスタッフ 宮本美子

西ネットの集会で緑成会整育園の事務長の野澤大輔さん（社会福祉士）が講演された。その後のグループごとの懇談会で、草野先生と金田先生が「宮本先生行ってあげなさいよ。ピアノは弾けるし、合唱の経験もあるでしょう。」とプッシュしてくれた。私は人生最後の仕事として、今まで学んだことを還元したいと思い、緑成会整育園へトコトコ歩いて行った（家から10分）。

ところが門の周りに消防車が何台も集まってきていて、緑成会整育園のベランダ非常口からは「退避経路は…。避難の手段は…。」と音声アナウンスが流れている。消防署の人が誤報ですよと教えてくれたのでホッと胸をなでおろし、ひとまず玄関に入り、アポの取り方（電話番号と介護療育係／フロアマネージャーのいそはたさん）を聞いて帰った。

その後野澤さんによる病院内施設見学、いそはたさんによる楽器紹介（実際演奏してみる）、そして4月13日（金）「春のお楽しみ会」（ボランティア団体「スコーレ日野」の鳴子踊りも参加しての桜まつり）と3回通った。野澤さんが小川駅そばの緑成会にはグランドピアノがあったが、古くなってしまってここへは持ってこられなかった。いそはたさんが小さいキーボードを3台弾いてくれて、「さすがヤマハですね、音が違う」と話すうちに、「私、自分でピアノ（88鍵キーボード）買おうかな」という気になった。

7月6日（金）七夕祭り（4日、5日、6日とフロアごとに開催される）の最後の5分間だけ時間がもたらえた。当日のタイムテーブルは以下の通り。

13:30 設営

14:00 開会のあいさつ

七夕の由来（OHP：昔のスライド）

星とりゲーム（大いに盛り上がる）

14:30 おやつ「天の川ゼリー」給食室手作り

14:40 短冊紹介

14:55 『七夕さま』を皆で歌う（私の出番）

15:00 七夕の会終了

病院内に寝そべって過ごす人たち（障がい者）のための「小上がり」があるので、そこをステージにしてピアノをしつらえ、歌詞は手書きでブルーの色模造紙にさし絵入りで書いた。

30代くらいの女性、手に黄緑色のクロググ・サンダルをはかせてもらってうれしそうにステージにはいはいしてくる男性…年齢も障がいもさまざま、歌うこともできないのだけれど、ピアノが鳴って私と介護士達・ご家族が歌うと「ワーツ」声をあげて車いすに乗ったどの顔もキラキラと輝いて、

こちらの方が感動してしまった。

1番2番と歌ったあと、今度は、いそはたさんが小さい太鼓をたたき、私がタンバリンでもう一度歌うと「アンコール！」「アンコール！」の声までかかった。さらっと



『手をたたきましよう』を皆で歌ったが、拍手喝采で、こちらの方が去りがたく、ご家族からも「娘もとても喜んでいました。楽しかった。ありがとうございました。」と感想をもらった。

後日私はお礼の手紙を書いた。——「クリスマス会」にはまた呼んでくださいね。『もみの木』『きよしこの夜』皆で鈴を持って『ジングルベル』…何でもできます。——

これを読んでいる皆さんも、緑成会整育園に行きませんか？そうすれば相互理解も深まるのに。

“教育貧困国ニホン”

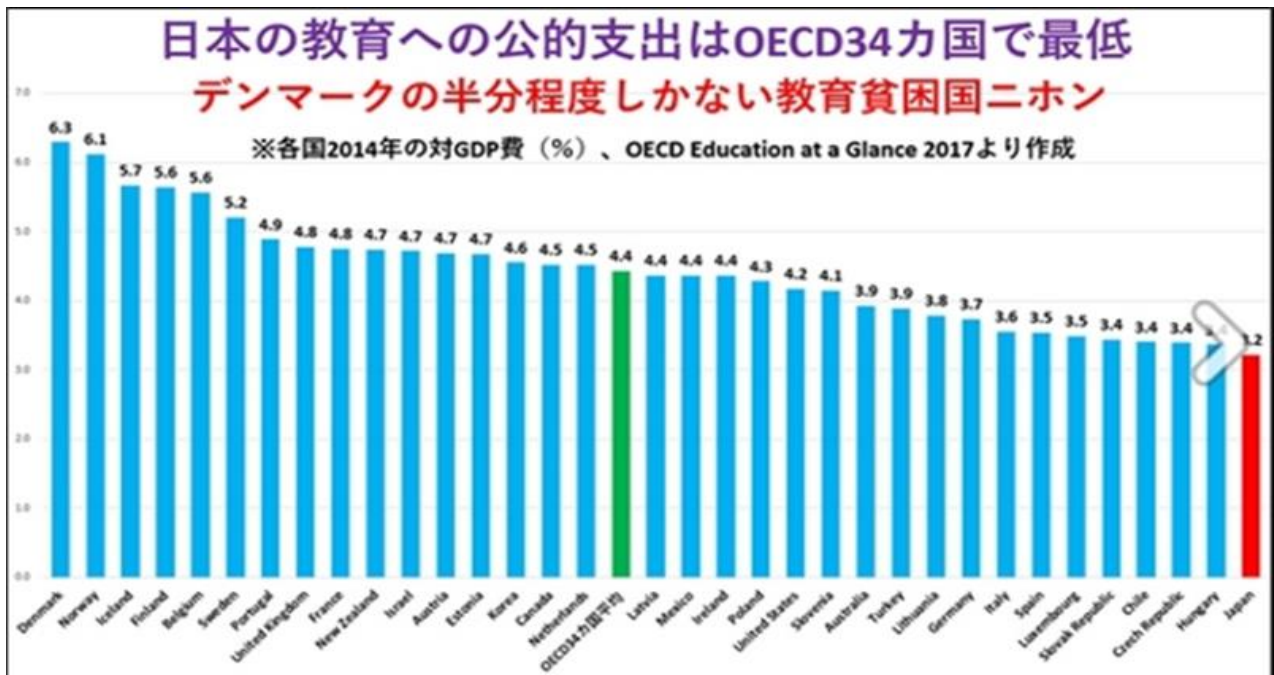
分かった会：奈良勝行

小平市では生活困窮家庭自立支援法に基づき、生活保護費受給家庭などの中学生を対象にした無料学習支援事業を2年前から行って、2018年4月からそれを拡充して実施している。国と市のおよそ1千万円の予算で、市内3か所の公民館などの公共施設を使っておよそ20人の生徒を対象に事業を行っている。

無料学習支援事業は、近年の相対的貧困率の上昇、生活保護費受給家庭数の増加、貧富格差の増大などにより、運営主体の違いはあるが、全国的に増えつつあ

る。その背景には、憲法第25条の「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」の規定に反し、政府が生活保護・生活保障の基準を年々引き下げている現実がある。

また、世界3位の経済力（GDP、2016年約5兆米ドル）を誇る日本は、公的教育支出の対GDP（2017年OECD統計、3.2%）は比較可能な34か国中では一番低い（OECD平均は4.4%（緑色の棒線））。（下のグラフ参照）



日本政府は、公共工事費や防衛費などを増やすのではなく、次代の日本を背負う子どもたちの教育のための予算をせめてOECD平均を超えるくらいに増やすべきだと考える。「教育貧困国ニホン」の汚名をすすぐために。

あれから4年
ついに走り出したコミュニティ・タクシ

南西地域ににじバス・コミタクを走らせる会

事務局 塚本博子



この不便な地域に、早く市民の足を確保したい、運動を加速せねばの思いから「走らせる会」が発足して4年が経ちました。この間、署名集め、学習会、市と交渉など多くの方々のご協力を頂きました。2015年12月の西ネット第20回懇談会の際、白梅学園大学で運動の説明をさせて頂き、以後一緒に進めてまいりました。

小平市が2017年に動き始め、地域代表と走らせ会等の代表による「小平南西地域コミュニティタクシーを考える会」(以下「考える会」)ができ、順調に早く走ると期待しましたが、これまた大変で、コースを決めるにも道路が狭く、警察の許可が難しく、30分以内に何処を走るか、決まるまで大変時間を要しました。

走り出してみて、行きたい所に行けているか? 便利になったのか? まだまだ検討の余地がはありますが、今年一杯実証実験運行期間です。沢山の方に乗って頂き、意見を反映し、より良い交通機関へ発展させる力になりたいと思います。7月30日の実証実験運行発車式は、やっと一緒に就いたという思いで感動しました。乗り心地良い、いなげやに行く便利、小川公民館、地域センター近くの停留所の要望、高齢者のみならず、鷹の台駅へ昼間の若い人の乗車が結構あるそうです。ただ、担当課の話では毎日70人乗ることが目標ですが、まだまだ少ないようで、皆さん大いに利用してほしいとのことです。



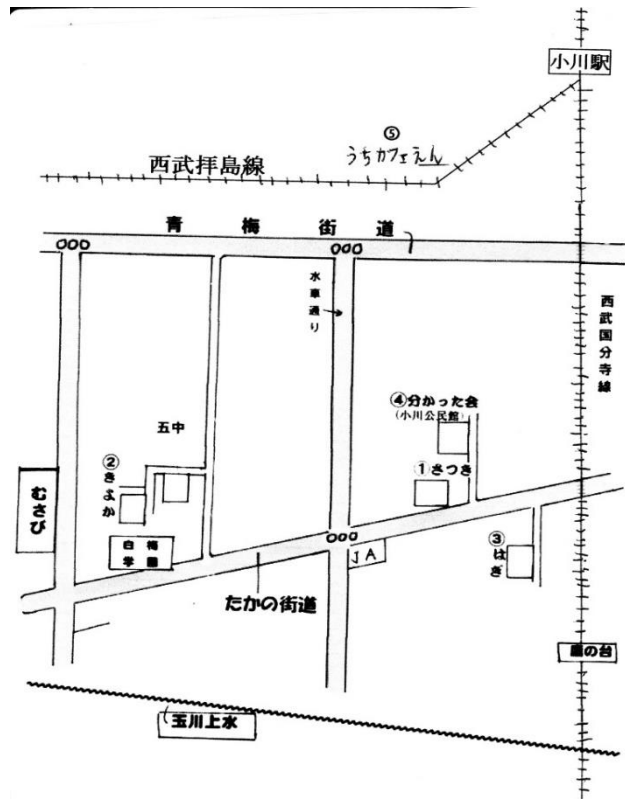
<鷹の台駅北発>9時10分、9時40分(以後)10分、40分発で、最終18時10分。

<ルート>①鷹の台駅北→②たかの台本通り→③北町二丁目→④北町四丁目→⑤あさひ西公園→⑥上水新町一丁目
→⑦上水新町地域センター→⑧黎明会入口→⑨南台病院前→⑩小川三叉路→⑪小平第五中学校→⑫創価学園西
→①鷹の台駅北

皆さん、コミュニティサロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております！（右の地図を参照）

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00
問い合わせ：渡辺 穂積
TEL:042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 10:00~15:30
問い合わせ：石川 貞子
TEL:090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7,17,27日：14:00~17:00
問い合わせ：萩谷 洋子:042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無科学習教室**
毎週木曜日 18:00~20:30（小川公民館）
問い合わせ：奈良 勝行（講師募集中!）
TEL:090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちかフェス」(小川町)**
毎週月・水・木・土 10:00~15:30分
問い合わせ：伊藤絹代
TEL:090-5441-6219



イベントの予定

- 10月20日（土）・21（日）白梅学園大学白梅祭
- 10月20日（土）小平十三小創立50周年
- 10月27日（土）小平十二小創立50周年
- 11月04日（日）さつきバザー
- 12月09日（日）きよか餅つき

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会：10月09日（火）
- 大学世話人会：11月06日（火）
- 地域世話人会：11月20日（火）
- 大学世話人会：12月04日（火）
- 地域懇談会：12月18日（火）
- 大学世話人会：01月15日（火）

西 ネット の 世 話 人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・久 保田進・穂積健児・ 杉浦 博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体（者）の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当（奈良まで）お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください（奈良勝行）。
メール：everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記：「小平西ネット」も2012年に設立されて7年目となり、広く地域に知られるようになってきています。私たちは、地域の取組みをつなぎながら顔の見える地域づくりを目指しています。皆様の積極的な参加をお願いします。原稿を寄せて頂いた方々、ありがとうございました（瀧口）。